



ゆっくりに ゆっくりに

保育園の園庭には、歴代の年長さんが作った色とりどりのこいのぼりが元気に泳いでいます。(他にも面白いもののこいのぼりも元気に泳いでいます。…見にいらして下さい)

こいのぼりの下では、朝から夕方まで、子どもたちの元気な声が響き渡っています。綺麗に咲き終わった園庭の桜の木は、今度は木のぼりをしたり、蟻や虫が登っているのを発見する木にかわり、その木の下では、活発に動き始めたダンゴ虫やぞり虫、土の中にいた幼虫を探せる子どもたちの姿があります。

“ママがいいー”と泣いている子もダンゴ虫を見て、涙も止まってしまうほど、ダンゴ虫は、子どもたちのアイドルです。

春から夏のすごし方

これから初めての暑い季節を過ごす子どもたち。赤ちゃんは『暑い』『寒い』と言えないので、気候に合わせて、外出時間や衣服などで調節してあげましょう。

こどものからだ

私たちの体は暑さに対し、皮膚の血管を広げて熱を逃がす働きがあります。また、汗腺から汗が分泌されることで、体温調節ができます。赤ちゃんは大人に比べて、体が小さく、汗腺の数は大人と同じなため、汗をたくさんかきます。

汗腺はお母さんのおなかにいるときからでき始めます。2歳半ごろまで増え続け、その後の汗腺は増えないと言われています。ですから、生まれてからそれまでの間に汗の出る生活をしておかないと、汗の出にくいからだとなってしまう、暑さに対応できず、夏に弱いからだになってしまう。

皮膚に日光が当たると血管が拡張するので皮膚の機能が高まり全身の機能もさかんにになります。さらに、骨の生成に役立ちます。そして、適度の外気にふれることは子どもにとっても親にとってもよい気分転換になります。



渡しっこ

お手玉あそびの基本となる、両手をお手玉に慣らすあそび。保育者(大人)と向かい合って回り、お手玉の渡しっこをする。



慣れてきたら立って、もっと慣れたら、子ども同士でやってみよう。簡単な2拍子の歌、例えば「どんぶりこ」などに合わせると、楽しいですよ。

ぎゅっちょ

①のリズムで大人の手のひらに
お手玉を「ぎゅん、ぎゅん」とつなぐ
②のリズムで子どもの頭にお手玉をのせる。

お手玉... ほぞれで作ったお手玉は、手にやさしく、重みもあって、指先の発達をうながす、とても良いあそび道具です。伝統あそびのあそび方や、渡りっこ、お手玉ごとの道具ほど幅広く遊べます。今は市販でも売ってますし、少し時間がある時に手作りして遊んでみませんか?

懐形

- 10×18センチの布を用意し、裏にして二つ折りにし側面を縫います。
- 袋のように口の部分と底の部分は、布の縁の周りを、縫い始めと縫わりの糸を強めて縫い、底の部分は縫ってとじます。
- これを洗濯します。
- 小豆を入れ、口を縫ってとじます。

ともえ形

① 8×4センチの色違いの布を2枚ずつ4枚用意して、袋のように縫いつけたものを作ります。

② 縫い合わせた布を袋のように組み合わせ、◎と◎、◎と◎、◎と◎と縫い、最後に④を縫って洗濯します。

③ ◎と◎の◎... ④のように縫い合わせる ◎だけ残す

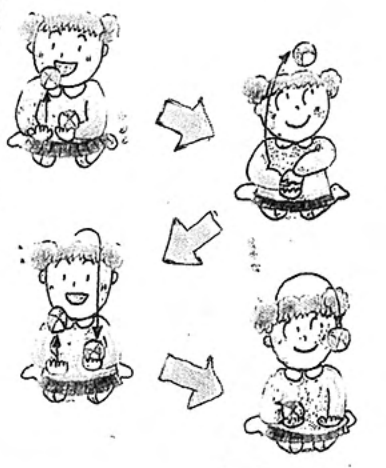
*数珠玉でもステキな音がします。

お手玉あそび

2個の投げ玉あそび

両手に1個ずつお手玉を持ち、ひざのあたりに置く。

- 1拍目で右手のお手玉を高くほうり上げたら、すぐ左手のお手玉を右手に渡し、左手で揚げて、落ちてくるお手玉を取る。
- 2拍目も右手のお手玉を高くほうり上げ、以下同じように左手のお手玉を右手に渡す。慣れたら、2拍子の歌に合わせて、テンポよく行う。



どんぶりこ



① どんぶりこ

② ぎゅっちょ